

○香川県民権協会 田窪純子 ノートルダム清心女子大 浅田幸子 広島県大 足立啓子

ノートルダム清心女子大 榎並英子 岡山大 遠藤マツエ 広島文教女子大 妹尾勝子 香川大 時岡晴美
山形県庁 中川忍子 広島文教女子大 長石啓子 広島大 中間美砂子 広島文学院大 富士田亮子

目的・方法 第一報に同じ。本報告では、居住地域(市街地・農村・漁村)、職業の有無、年齢層(25～34才、35～44才、45～54才、55才以上)の違いによる女性のネットワークの現状と課題を明らかにする。

結果 地域別には、中四国では市街地とはいえ農村的色彩も強く、比較的近いところに別居の親が居住する者も少なくない。しかし、農漁村と比較すると、市街地はネットワークの自己評価が低く、ネットワークの拡大を希望しているものの、努力は不十分である。農漁村と比べ、移動が多く既存のネットワーク組織の少ない市街地では、今後努力を実際に行える環境作りが必要である。職の有無別では、有職者は無職者に比べ接触人数は多いものの、現在のネットワークの評価は低い。しかし、拡大努力は不十分であり、時間や機会の不足に妨げられていると思われる。地域別には市街地居住者、職の有無別には有職者に公共機関に不満を持つ者が多く、より必要性を感じているものと思われる。年齢別には年齢層が上がるにつれ日常時のリンクージュ活性度は低下するが、緊急時のリンクージュ活性度は増加している。加齢に伴い接触人数は増加するものの、リンクージュとしては親族が中心である。若年層では、自己評価が低く、拡大希望は高いが、拡大努力には消極的である。現在のところ、ネットワークの必要性が低いと思われる。若年層は今後、家族の形成や子供の成長に伴いネットワークの状況が変化することが予想されるが、家族、親戚の縮小や都市化による近隣関係の変化がネットワーク形成に影響を及ぼすと思われるので、加齢とともに積極的なネットワーク形成活動を推進していく必要がある。